

「世の光イエス」

§ 098 ヨハ 8 : 12~20

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①十字架にかかる前の年の仮庵の祭り(半年前)
- ②イエスは、祭りの終わりの大いなる日に、立って大声で人々を招かれた。
- ③前回学んだ「姦淫の女」の箇所は挿入句であった。
- ④ヨハ 7 : 52 に続いて、8 : 12 が来る。
- ⑤ § 98 と § 99 は、5 番目の説教である(ヨハネの福音書に7つの説教がある)。
- ⑥今回は、§ 98 だけを取り上げる。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

「パリサイ人たちは、自分は世の光であるというイエスの宣言に怒る」(§ 98)  
ヨハ 8 : 12~20

2. アウトライン

(1) イエスの宣言(12節)

(2) 論争(13~19節)

- ①パリサイ人：自己証言は無効である(13節)
- ②イエスは証人を必要としない(14節)
- ③イエスの裁きは人間のそれとは違う(15~16節)
- ④イエスにも証人がいる(17~18節)
- ⑤パリサイ人：見たこともない父は証人になれない(19節)

(3) 結末(20節)

3. 結論：

- (1) 人生の渇きに対する答え
- (2) 人生の不安に対する答え

イエスは、人間の必要に答えるお方である。

I. イエスの宣言(12節)

1. 宣言の時はいつか。

- (1) 「姦淫の女」の箇所は挿入句である。

- ①つまり、祭りの終わりの日(7日目)が続いているということである。
- ②イエスは、人々を招かれた。

## 2. 宣言の場所はどこか。

### (1) 宮の中である。

- ①20節によれば、「献金箱のある所」である。
- ②婦人の庭に13の献金箱が置かれていた。
- ③箱にはラッパのような形をした口が付いていた(シヨフェロット)。
- ④人々、特にパリサイ人たちは、この口の中に献金を投げ込んでいた。

### (2) ランプに火を灯す儀式

- ①仮庵の祭りでは、水を汲んで祭壇に注ぐ儀式があった。
- ②もう一つの儀式は、ランプに火を灯すというものである。
- ③巨大な燭台が2台そこに置かれた。
  - \*50キュビトの高さ(22メートル)
  - \*燭台の上に4個のランプが置かれていた。
  - \*毎日、夕暮れになると、若い祭司たちがランプに火を灯した。
- ④ミシュナによれば、ランプの光は、エルサレムの狭い路地まで照らしたという。

### (3) 音楽と踊り

- ①レビ人の聖歌隊が階段の上に整列し、讚美歌を歌った。
- ②詩120~134篇 「都上りの歌」、「都に上る歌」
  - \*「שִׁיר הַמַּעֲלוֹת」(上りの歌)
  - \*巡礼歌であり、祭司たちが階段を上った時に歌われた歌でもある。
- ③階段の段数は、15段である。「上りの歌」も15段である。
- ④その音楽に合わせて、祭司、パリサイ人、巡礼者たちが、夜通し踊った。
- ⑤仮庵の祭りは、喜びの祭りである。
- ⑥もう一つの光の祭りがある。ハヌカの祭り。

「そのころ、エルサレムで、宮きよめの祭りがあった」(ヨハ10:22)

## 3. 宣言の内容

「イエスはまた彼らに語って言われた。『わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです』(12節)

- (1)「彼ら」とは、霊的指導者たちと群衆であろう。
- (2)ユダヤの文書には、「世の光」という用語が頻繁に登場する。

- ①イスラエル、②エルサレム、③族長たち、④メシア、⑤神、⑥有名なラビたち、⑦律法 (以上に共通しているのは、究極的な意義を有するということ)

(2) ラビ的解釈

- ①ランプに火を灯す儀式は、シャカイナグローリーの象徴である。
- ②シャカイナグローリーは、イスラエルの間に住まれる神の臨在の現れである。
- ③出エジプト記の荒野の旅で現れた雲の柱と火の柱
- ④幕屋に宿ったシャカイナグローリー

(3) イエスの主張

- ①イエスは、ご自分がシャカイナグローリーだと宣言しておられる。
- ②変貌山では、3人の弟子たちがシャカイナグローリーを目撃した。
- ③さらに彼らは、天からかかった父の声を聞いた (バット・コル)。
- ④イエスは、イスラエルの民の間に現れたシャカイナグローリーである。
- ⑤ヨハネの福音書の中の2番目の「I am.」である。

## II. 論争 (13~19 節)

### 1. 自己証言は無効である (13 節)

「そこでパリサイ人はイエスに言った。『あなたは自分のことを自分で証言しています。だから、あなたの証言は真実ではありません』 (13 節)

(1) これはモーセの律法に基づく法律議論である。

- ①申 17 : 6 と 19 : 15 の規定
  - \*2人、または3人の証人の証言が必要である。
- ②ラビたちは、自己証言の有効性を認めなかった。

(2) しかし、「姦淫の女」の裁きにおいては、彼らはこの規定に違反した。

- ①自分たちが違反した規定を、イエスに適用している。
- ②彼らは、最初からイエスを信じるつもりはないのである。

### 2. イエスは証人を必要としない (14 節)

「イエスは答えて、彼らに言われた。『もしこのわたしが自分のことを証言するなら、その証言は真実です。わたしは、わたしがどこから来たか、また、どこへ行くかを知っているからです。しかしあなたがたは、わたしがどこから来たのか、またどこへ行くのか知りません』

(1) イエスは、自分の場合は複数の証人を必要としないと言われた。

- ①ラビたちが自己証言を否定した理由は、人間には偏見(片寄り)があるから。
- ②イエスの場合は、それがない。イエスは、完ぺきな自己認識を持っておられた。
- ③自分が父のもとから来て、父のもとに帰ろうとしているのを知っていた。
- ④イエスは神であるので、その証言に誤りはない。

(2) しかし、パリサイ人たちは無知で、偏見に満ちている。

- ①彼らは、イエスがどこから来たかを知らない。  
\*父のもとから来たシャカイナグローリーだということを知らない。
- ②彼らは、イエスがどこに行くかを知らない。  
\*イエスは、死後に復活し、父なる神のもとに行こうとしておられる。

### 3. イエスの裁きは人間のそれとは違う(15~16節)

「あなたがたは肉によってさばきます。わたしはだれをもさばきません。しかし、もしわたしがさばくなら、そのさばきは正しいのです。なぜなら、わたしひとりではなく、わたしとわたしを遣わした方がさばくのだからです」

(1) パリサイ人たちの裁き

- ①肉による裁き
- ②表面的なことしか見ない。
- ③だから、イエスの本質が見えないのである。
- ④彼らはイエスのことを、「ナザレの大工」としてしか見ていない。

(2) イエスの裁き

- ①イエスは裁かない。  
「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである」(ヨハ3:17)
- ②終末における裁きも、イエスは父なる神の裁きを執行するだけである。
- ③しかし、もしイエスが裁くなら、その裁きは常に正しい。
- ④イエスひとりの裁きではなく、父なる神とともに裁くから。
- ⑤イエスは、ご自分が父なる神と一体であることを強調された。
- ⑥パリサイ人たちから見ると、これは冒涇罪に当たる。

### 4. イエスにも証人がいる(17~18節)

「あなたがたの律法にも、ふたりの証言は真実であると書かれています。わたしが自分の証人であり、また、わたしを遣わした父が、わたしについてあかしされます」

(1) 「あなたがたの律法」

- ①この言い方は、皮肉である。
- ②彼らはモーセの律法の所有者であるが、それを都合よく利用しているだけ。  
\*本当に所有者なら、その命令に完全に従うべきである。
- ③イエスは、律法が2人ないし3人の証人を要求していることを認めた。

(2) ここには、ユダヤ的議論がある(大から小の議論)。

- ①もし、人間の証人(2人ないし3人)が有効なら、ましてや…。
- ②イエスが、第1の証人である。  
\*イエスが行ったメシア的奇跡
- ③父なる神が、第2の証人である。  
\*天からの声
- ④それでもユダヤ人たちは、イエスを信じようとはしなかった。

5. 見たこともない父は証人になれない(19節)

「すると、彼らはイエスに言った。『あなたの父はどこにいるのですか。』イエスは答えられた。「あなたがたは、わたしをも、わたしの父をも知りません。もし、あなたがたがわたしを知っていたなら、わたしの父をも知っていたでしょう」

- (1) 彼らの言葉は、嘲りである。
  - ①あなたの父は誰かではなく、どこにいるのかと聞いた。
  - ②イエスが、神を父だと主張していると理解した。
  - ③イエスの誕生に関する噂を知っていたのであろう。  
\*タルムードでは、婚外子だとされている。
  - ④父が証人なら、法廷に姿を現さなければならない。

(2) イエスの回答

- ①福音書では、イエスは一度もヨセフを父と呼んでいない。
- ②イエスが誰であるかを知らないなら、父をも知らない。
- ③イエスを通してでなければ、父を知ることはない。

#### IV. 結末(20節)

1. 20節

「イエスは宮で教えられたとき、献金箱のある所でこのことを話された。しかし、だれもイエスを捕らえなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである」

- (1) イエスは、公然と話しておられた。

①神殿の中の婦人の庭、献金箱のある所で、教えた。

(2) しかし、だれもイエスを逮捕しなかった。

①神の守りがあったから。

②「イエスの時」(十字架の時)が、まだ来ていなかった。

#### 結論：

はじめに：

(1) 仮庵の祭りの2つの儀式

①水を汲む儀式

②ランプに火を灯す儀式

(2) イエスは、この2つの儀式に応答して、人々を教えた。

1. 水を汲む儀式：人生の渇きへの回答

「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。『だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる』(ヨハ7:37~38)

(1) (例話) ある婦人の証し

2. ランプに火を灯す儀式：人生の不安への回答

「イエスはまた彼らに語って言われた。『わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです』(ヨハ8:12)

(1) (例話)

質問：創造主が神なら、それはどうして出来たのですか？最初から神が存在していたことが信じられません。

回答：イエス・キリストを通して神を知るのである。

(2) イエスの弟子たちは「世界の光」である。

「あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません」

(マタ5:14)

①イエスが太陽だとするなら、私たちは月である。

②イエスに従う者は、決して闇の中を歩くことがない。